

【令和7年度】

高齢者用肺炎球菌ワクチン接種説明書

～接種希望の有無に関わらず必ずご確認ください～

○肺炎球菌とは

肺炎球菌による肺炎は、成人の肺炎の25～40%を占め、特に高齢者での重篤化が問題になっています。その他、慢性気道感染症、中耳炎、副鼻腔炎、肺血症、髄膜炎の起因菌として知られています。脾臓摘出者の方、リンパ腫などの方は、肺炎球菌感染は特に重篤になることが知られています。

○高齢者用肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌ワクチンは、約90種類ある肺炎球菌のうち、頻度の高い23種類の肺炎球菌について予防するものです。（全ての肺炎を予防するものではありません。）

○予防接種を受けることができない人（下記の⑤は、制度上、接種対象外となる人）

- ① 明らかに発熱のある人（37.5度以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 過去に、本ワクチンの成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことがある人
※アナフィラキシーショックとは、接種後30分以内に顔が腫れる、全身にじんましんが出るなどのひどいアレルギー反応のことです。
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合
- ⑤ 過去に23価肺炎球菌ワクチンを接種したことのある人
（過去5年以内に肺炎球菌ワクチンを接種されたことのある方は、本剤の接種により腫れ、赤みなどの症状が強く出ることがあります。）

○予防接種を受けるに際し、注意しなくてはならない人

- ① 心臓血管系疾患、じん臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな人
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱の見られた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- ③ 過去にけいれんの既往のある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ⑤ 本ワクチンの成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

○ワクチンを接種した後

- ① 接種当日は、激しい運動を避けてください。
- ② 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射したところをこすらないでください。

○接種後の副反応

接種後に発熱したり、接種した部位が腫れたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。ただし、接種部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの重い症状があったら、かかりつけの医療機関で応急処置を受けた後、下記までご連絡ください。

○他のワクチンとの接種間隔について

本剤を受けた後は、他の予防接種を受けるまで6日以上の間隔をおいてください。
また、生ワクチン（はしか等）を先に接種した場合は27日以上、不活化ワクチン（インフルエンザ等）を先に接種した場合は6日以上の間隔をおいてから、接種してください。

重要なお知らせ

- 助成を受けて接種できるのは、生涯1回だけです。今年度、接種対象者（補助対象者）となっている方で接種を希望する場合は、かかりつけ医等と相談のうえ令和8年3月31日までに接種してください。なお、インフルエンザが流行する（秋期）前に接種を完了することをお勧めします。
- 本ワクチン接種で獲得できる抗体は、5年以上持続することが認められています。